兵庫県立神戸高等学校　令和5年度　学校評価　自己評価（教職員による評価）

資料4

自己評価方法について

1　年度当初に部署・担当（各部・学年・教科など）ごとに本年度の実践目標を立てる。
2　目標に沿った取組を展開する。必要に応じて軌道修正をしながら取組を進める。
3　年度末に部署・担当ごとに成果をまとめる。
4　成果を踏まえながら、全教職員による評価を行う。
それぞれの実践目標に対して、次の4つの尺度で評価する。その平均値（評価表の右端の数値）を目標ごとの自己評価とする。
4　達成できている　　3　おおむね達成できている　　2　あまり達成できていない　　1　目標を達成できていない

領域	評価の観点	評価項目	番号		実践目標 と 成果	評価
学校運営	総務・広報・図書	家庭や地域への情報発信	1	実践目標	オープンハイスクール・学校説明会の実施、ならびに総合理学・探究科説明会や予備校・塾の説明会等を通じて、中学生やその保護者・地域へ情報を発信し理解を深める。	3.7
				（成果）	オープンハイスクール・学校説明会を他校に比べ、多く実施し、多くの中学生や保護者に参加していただいた。中学校や塾での説明会にも積極的に参加し、神戸高校の魅力を発信した。	
		学校要覧・学校案内の改訂、諸規定の見直し	2	実践目標	学校要覧や学校案内の内容を改訂する。さらに、各分掌の協力を得て、規程集や内規・申し合わせの見直しを図る。	3.0
				（成果）	積極的に学校要覧や学校案内を改訂することはできなかったが、新年度のデータ修正などを行った。規定集や内規・申し合わせを次年度に向けて、見直しを行うと同時に年度末に再度、確認を行った。	
		電子掲示板による職員連絡事項の共有の推進	3	実践目標	グループウェアを活用して、職員朝礼の連絡事項や行事予定などの情報の共有を図る。	3.0
				（成果）	グループウェアを活用して、詳細かつ積極的に情報共有を図った。各教職員のグループウェアを確認する習慣をつけることは課題である。	
		国際交流事業の推進と異文化理解	4	実践目標	海外姉妹校の訪問や受け入れを通して、相互理解を深め友好親善を推進する。また学校の国際交流事業の取り組みを全校生にも紹介し、理解を深める。	3.2
				（成果）	コロナ禍以降久しぶりの実施となり、連絡調整など時間のかかることも多かったが、予定していた行程を概ね実施できた。次年度へ向け、反省し、準備を始めている。	
		防災教育	5	実践目標	防災避難訓練を実施し、人命尊重の精神と安全確保の意識を高め、災害発生時には適切な行動ができる能力を高める。	2.9
				（成果）	避難経路は各教室に掲示し、防災避難訓練に代わり、消防士を招いて防災講演を1回（7月）、シェイクアウト訓練を1回（11月）実施した。改めて、防災・減殺に向けた意識を高めた。	
		生徒委員会の自主的活動の支援と図書館利用の推進	6	実践目標	生徒の自主的委員会活動を支援し、生徒購入希望本の配架や教師推薦図書の案内などを積極的に進める。また、生徒作成の「らいぶ」や「図書館報」により読書への意欲を高める。	3.3
				（成果）	図書館の利用者数も多く、図書委員会からはビブリオ大会で全国大会に出場する生徒も出てきており、読書への意欲は高まっている。	
		創意工夫を生かした実践の展開の場の整備	7	実践目標	探究活動やディベート等による表現活動の支えとなるよう、図書館等の資料の充実・環境整備に努める。	3.2
				（成果）	探究活動等で資料集めなど、図書館を利用する生徒も数多く、資料も充実している。図書の配置の工夫など、環境整備も進んでいる。	
	教務	新教育課程の編成	8	実践目標	新学習指導要領に基づく教育課程を生徒の実態に応じて編成する。	3.1
				（成果）	新課程の教材や大学入試など情報を考慮しながら，新課程への全学年への切り替えが完了となる次年度教育課程の編成を行った。	
		校務処理の円滑化	9	実践目標	校務支援システムを適切に運用し、教務関連作業等の一元化・正確化・効率化を図る。	3.1
				（成果）	校務支援システムを今後さらに有効に活用できるよう機能の研究や運用方法の改善に務めた。	
	進路指導	進路指導体制の充実	10	実践目標	前年度の進路状況について、進路指導部がその結果を分析し、職員進路研修会を実施して、全職員に提示し、今後の進路指導について研修する。さらに、3年生は、出願検討会議（12月），共通テスト後出願会議（1月末）を行い、学年・進路指導部で検討を行う。	3.5
				（成果）	5月に新旧3年情報交換会を行い、2023年度入試の分析と本校生の指導に関する情報を交換した。6月の進路指導研修会では、78回生1年基礎学力考査の結果に基づいて過年度比較及び教科ごとに設問別の分析を行い、更に2023年度入試の大学別合否結果について職員間で情報を共有した。3年生については、12月と1月に2回の出願検討会議を行い、生徒個々の出願指導について検討した。3学期には、大学入学共通テストの結果をふまえて問題分析及び出願動向を含めた指導経過及び結果を示し、次年度に向けての指導方針を共有する。	
			11	実践目標	実力考査や模試の結果をもとに、毎回検討会議を開き、生徒の学力の現状を分析し、各教科が今後の授業等の指導に生かす。	3.3
				（成果）	実力考査ごとに検討会議を実施した。（1,2年は年3回、3年は5回）3年生については問題形式・難易度が異なる複数のテスト（業者模試と校内実力考査）を実施し、多面的な分析を行い、生徒一人一人の成績から各教科として取り組むべき課題や生徒の弱点を把握し、その後の指導に参考となる情報を共有した。	
		進路意識の向上	12	実践目標	生徒のキャリアアップの一環として、大学の職員及び外部講師を招き大学入試説明会や出前講義を実施する。また、卒業生を中心に、大学生・大学教員を招き話を聞くことで、進路の目標を明確にし、またその実現に向けてどんな道筋や方法があるのかを考えさせ、より強い進路目標の設定の手助けとする。	3.5
				（成果）	大学職員による説明会・出前講義を合計5回実施した。（早稲田大・大阪大・東北大・九州大・神戸大）また、10月には本校OBの環境省職員を招き、国家公務員説明会を行った。更に7月には、予備校の講師を招き保護者及び生徒対象の医学部医学科説明会を実施し、引き続き11月には医学部系統の面接指導をグループ別に実施し目的意識を高めるとともに今後の対策を学んだ。例年実施しているキャリアアップセミナー（卒業生による在学している大学・学部のプレゼンテーション）は、3学期に実施を予定している。	
			13	実践目標	3年生には、「自己実現」を配布し、1，2年生には、学年集会において、学年進路指導部の協力のもと、生徒に進路情報を提供する。保護者には、保護者会やPTA進路研修会を実施して進路情報を提供し、生徒・保護者の進路意識を高める。	3.7
				（成果）	進路決定の方針や進路に関する情報を中心に3年生向けの進路通信「自己実現」を年間約30号発行した。「自己実現」はホームページにも掲載し、保護者にも情報を提供した。2年生には「真理の翼」、1年生には「海波の夢」という進路通信を発行した。また、6月にはPTA主催の入試に関する研修会（希望保護者・生徒対象）を行い、大学入試の現状と今後の課題について情報を提供した。保護者会については、3年生で2回（7月・12月）、2年生で2回（10月・3月）、1年生で1回（10月）実施し、各学年に合わせた入試情報や進路意識を高める話を行った。	
		主体的な進路選択能力の育成	14	実践目標	「進路ロングホームルーム」を通じて「進路のしおり」の発行や、資料を配付して、職業や大学を計画的に調べさせ、自己認識を深めさせるとともに必要な進路情報を収集し進路選択能力を育てる。	3.2
				（成果）	学年進路担当者が中心となって、進路ロングホームルームを実施した。1年生は職業，学部の研究、2年生は大学の入試科目の研究、3年生は考査や模試等の結果を振り返りながら希望進路実現のための研究を行った。	
			15	実践目標	各大学から送付されたり、訪問者が持参する資料を整理、開放して、生徒が閲覧・活用しやすいように進路資料室や進路資料掲示板（進路資料室前）の環境を整える。	3.4
				（成果）	各大学からの資料を、生徒が閲覧，活用しやすいように整理して進路資料室を整えた。さらに、進路資料掲示板（進路資料室前）にどの学年の生徒も持ち帰れる大学情報資料を設置した。進路資料室の放課後の利用率も増えている。	
	生徒指導	伝統行事の自主的立案と全校生徒の積極的参加の推奨	16	実践目標	伝統行事の自主的立案と全生徒の積極的参加を奨励し、学校全体を活性化させる。	3.3
				（成果）	創立記念祭、体育大会、音楽会をなるべくコロナ禍の前の状態に戻そうと、自治会執行部のリーダーシップの下、創意工夫して取り組んだ。また、秋季定期戦は神戸高校自治会執行部の主催で、メイン競技のラグビーも含め、全ての種目を校内で実施した。運営面で課題は残ったが、両校生の協力もあり、大いに盛り上がり、両校ともに有意義な時間となった。春季定期戦は悔しい結果に終わったが、秋季は総合優勝を成し遂げることができ、学校の活性化にもつながった。	
		自治会の自主的・自治的運営能力の育成	17	実践目標	アセンブリー、三大行事に関するフリートーキングの活性化を図る。	3.0
				（成果）	体育大会、音楽会の事前のフリートーキングは、自治会執行部が発足して初めてのフリートーキングであったこともあり、不慣れであったこと、生徒指導部の指導も行き届かなかったことにより、数多く課題が残った。その反省を活かし、体育大会、音楽会の事後のフリートーキングでは、準備も整い、スムーズな会議運営ができるようになり、自治会執行部の成長を感じた。活発な意見交換ができ、フリートーキングとして有意義な時間となった。	
			18	実践目標	リーダーの育成、上級生が後輩を正しく指導する気風を支援する。	3.0
				（成果）	部活動や委員会活動にとどまらず、学校行事を通じて、学校全体のリーダーや、各集団の中でのリーダーの育成を強く意識して、取り組むことができた。上級生が率先垂範して、後輩の良きモデルとなるような場面が数多く設定できた。また、体育大会の神高のあゆみの練習など、後輩も先輩から学ぼうとする意欲的な姿勢が見ることができた。	
		生徒の内面理解を図る生徒指導	19	実践目標	教員相談委員会との連携を密にし、生徒の正しい理解・情報の共有をはかる。	2.8
				（成果）	教育相談委員会との密な連携という点では少し課題が残った。情報共有および学校全体として共有された情報を活用した上での、きめ細やかな指導については学年、担任レベルでは積極的に行えた。全体としては、まだまだ積極的にできることがあり、次年度においても優先度の高い重要課題としたい。	
		問題発生時の危機管理態勢の確立	20	実践目標	問題行動発生時に対するマニュアルを作り、それを教員全体で理解・徹底させる。	2.7
				（成果）	生徒指導事故（問題行動）対応マニュアルの作成に着手し、他校や県教委のアドバイス等を参考にしながら、完成させることができた。教職員全体への周知については行うことができた。研修会等を通じて、それらを徹底できるようにすることの課題は残った。	

領域	評価の観点	評価項目	番号		実践目標 と 成果	評価
学校運営	管理保健	教育相談体制の充実	21	実践目標	教職員のカウンセリング・マインドを深め、生徒理解の資質を高める。支援を必要とする生徒に対しては、特別支援委員会・教育相談委員会を開催し、支援体制作りや職員全体での共通認識を図り、問題解決に向けて保護者および関係機関との連携を図る。	3.0
				（成果）	教職員対象のカウンセリングマインド研修については、いじめ・不登校に悩む生徒と保護者の対応について実施した。また教育相談については、困り感を持った生徒や保護者に対し、担任等から教育相談へ積極的につなげてもらい、問題解決に向け、組織的な連携を図った。	
		安全教育の充実	22	実践目標	長期休業前に運動部の生徒を中心とした、生徒や教職員を対象に救急法講習会を行い、心肺蘇生法（AED使用法を含む）および応急手当の知識・技術を習得する。また、熱中症の予防・対応をはじめ、必要な応急処置について学ぶ。	3.5
				（成果）	1学期終業式の日に教育委員会EARTHの行使による生徒や教職員への救急法講習会を実施した。参加できなかった教職員に対しては、別日にシュミレーション研修を行い。必要な知識・技術を習得した。	
		教育環境の向上と美化活動の推進	23	実践目標	大掃除の分担を見直し、校外の清掃にも人員を配置し校内外の美化に努める。清掃道具を順次新しくし、日常の清掃での美化が徹底できるようにする。	2.9
				（成果）	掃除用具を適宜補充しながら、通常の清掃がほぼ予定通りできた。今後は大掃除の清掃場所を拡大していくことも必要である。	
	総合理学・探究	総合理学科のカリキュラムの充実	24	実践目標	グローバル人材育成をめざし、コアになる力としての「問題を発見する力」「未知の問題に挑戦する力」「知識を統合して活用する力」「問題を解決する力」、ペリフェラルとしての力としての「交流する力」「発表する力」「質問する力」「議論する力」の8つの力をよりよく伸張するための授業改善を図る。	3.4
				（成果）	8つの力の育成は，総合理学科の中心の目標である。この目標の達成を目指して今年度は，予定していた活動を含め、シンガポールの海外の研修や発表会等を従来通りに行うことができた。また，各教科も実験機材や発展的内容を含めた教材を活用した授業展開を行うことができた。☒	
		創意工夫を生かした探究活動等の実践	25	実践目標	交流・議論・発表等を軸とした生徒の主体的・協働的な研究活動・探究活動の効果的なカリキュラムの開発とその実践を行う。	3.4
				（成果）	外部人材の活用を積極的に行い，サイエンス入門や課題研究では，いろんな視点からの助言をいただき，生徒自らの研究活動に生かすことができた。また，SSH特別講義やSSH特別実験会およびSSH通信による各種プログラムの案内などもできるだけ行い，主体的・協働的な活動へにつながる機会を多くした。そして普通科の神高探究の文系・理数系テーマも充実しており，特に理系テーマを「サイエンス探究」としてSSH事業の対象として支援した。	
		在校生と中学生、その保護者への総合理学科の広報	26	実践目標	在校生とその保護者に対しては、保護者会やSSH通信や神戸高校ホームページを活用して広報をおこなう。また、中学生とその保護者には、総合理学科説明会や校外での説明会で、学科の特色や魅力を説明し、理解を深めてもらう。	3.5
				（成果）	総合理学科説明会を行い，その中で総合理学科3年生の各班から研究発表を含めた活動の説明も行い，中学生やその保護者に丁寧な広報を行うことができた。また，校外での広報活動も行い，参加された中学生やその保護者に，本校のホームページの紹介，SSH通信などSSH事業を含めた本校および総合理学科の育成目標や活動内容を詳しく説明した。在校生においてもSSH通信等を通じて各種プログラムの案内を行った。	
		SSH事業の推進と成果の全国への普及	27	実践目標	神戸高校サイエンスアドバイザーなど外部人材の活用で人材育成の効果をさらに高める。 SSHの取組で得られた成果を普通科生徒や県内他高校へ波及させる。 科学技術人材育成に係る実践事例として、Webページを利用しその取組を全国に情報発信する。	3.6
				（成果）	サイエンス入門・課題研究・神高探究等の探究活動，科学英語等の授業，SSH特別講義や外部施設への見学なども例年の形で，リモートも含め，多様な外部人材を活用することができ，人材育成の効果を高めることができた。SSH特別講義やSSH特別実験会も多く行い，全校生が参加できる企画を実施した。SSH事業普及のwebページも随時更新を行い，閲覧数も増加し，全国へのSSH事業の普及として発信した	
学☒☒校☒☒運☒☒営	学年経営	第１学年	28	実践目標	神戸高校生としての自覚を持たせ、基本的生活習慣と礼儀・マナーの確立を図る。生徒の現状を把握し、家庭との連携を密にして、生徒の個別対応を大切にした指導を行う。	3.3
				（成果）	各担任が家庭との連絡を密に行い、個々の状況に応じた対応を行った。学年独自で風紀委員会を開催し、神戸高校生としての自覚を持たせる取り組みを行った。	
			29	実践目標	中学生からの気持ちを切り替えて、適切な課題に取り組ませたり、予習・復習を習慣化させることにより神戸高校の授業に慣れさせる。iPadも活用して情報リテラシーを意識させる。さらに、個々の学習目標を立てさせ、状況に応じた自主的で主体的な学習のあり方についても考えさせる。	3.3
				（成果）	年度当初に外部講師を招きマナー講習会を開催するなど、情報の収集・発信やセキュリティ意識を高めることができた。	
			30	実践目標	新型コロナによる様々な制限がなくなる中、部活動や学校行事に、積極的に取り組ませ、一人一人が生き生きとした学校生活が送れるよう適切に指導・助言を行う。	3.5
				（成果）	六甲宿泊登山を無事に行うなど、各種行事において積極的に取り組むことができた。	
		第２学年	31	実践目標	授業を中心に据えて予習・復習を習慣化させることで、基礎学力定着の徹底を図る。「知識」を「知恵」に昇華させ、「深い学び」を追求する姿勢を身に付けさせる。	3.6
				（成果）	予習復習の習慣化・課題の提出・小テストへの取り組み等、授業を軸に据えての学習習慣は確実に定着しつつある。また、夏季休業中に補習を行い、また神高探求や課題研究の取り組みなどを通じ、学習意欲を高める指導を行い、成果を上げている。	
			32	実践目標	自治会や部活動など学校生活を推進する面で、中核となる学年であることの自覚を持たせる。「自重自治」の精神に基づいてリーダーシップを発揮できるよう、また他者との共生の精神を培うよう指導する。	3.5
				（成果）	自治会や部活動の中心として活動する中で、中核学年としての自覚は固まりつつある。文化祭における園遊会や合唱コンクールでは周囲の生徒と力を合わせて、一つのものを作り上げる中で、リーダーシップや他者との共生の精神を培うことができた。	
			33	実践目標	集団活動・個人活動を問わず、あらゆることに積極的に取り組ませ、社会の変化に対応する能力や態度の育成を図り、助言・指導を行う。	3.5
				（成果）	自治会活動・部活動・英国研修・シンガポール研修・修学旅行・東京キャピタルツアーなどに積極的に取り組み、自らの課題を発見し、解決していった。	
		第３学年	34	実践目標	最高学年としての責任感をもって、諸学校行事に取り組ませる。本校の教育活動を大切にして、神高生として相応しい学校生活を心がけるように指導する。	3.2
				（成果）	部活動や委員会活動を最後までやり遂げるとともに、学校行事への積極的参加や日常の学校生活を大切にさせるようにした。	
			35	実践目標	ウイークエンドセミナーや学期中・夏季休業中の補習の実施、などによって自主的な学習態度を育成し、学力の飛躍的向上を図る。3学期の学習の支援を行い、学力の更なる向上を図る。	3.4
				（成果）	学習状況を把握し、個々の学習への取り組み方を考えさせた。ウィークエンドセミナーや休業中・早朝・放課後・補習等の実施により、学力の更なる向上を図った。	
			36	実践目標	個人面談や三者面談を通じて、「自身が大学で何をなすのか」について考えさせた上で希望進路を確定させ、「第一志望大学合格」の意志を定着させる。進路保護者会や「自己実現」の発行を通して入試制度や大学の情報を知らせ，保護者の協力と理解を得て、第一志望校への出願を図る。	3.5
				（成果）	二者・三者面談を複数回行って進路を考える支援をした。早期から「第一志望大学」の目標を設定し学習に取り組ませることで、学力向上を図った。進路指導部の協力のもと、進路情報を保護者と共有することに努めた。	
課題教育	人権教育	人権教育推進体制の確立と人権教育の推進	37	実践目標	人権教育をホームルーム活動をはじめとして全ての教育活動に位置づけ、全教職員で取り組む	2.7
				（成果）	複数回の人権アンケートや生徒への個人面談を行い、生徒の状況把握に努めた。地理歴史、公共の授業での啓発、講演会や映画鑑賞を行い、人権意識の向上を促進した。	
	情報教育	情報活用環境の整備とICT機器の活用支援	38	実践目標	教育実践の効果を高めるために、情報を活用する環境を整備し、ICT機器の活用を推進するとともに，技術的な支援を行う。	3.3
				（成果）	○情報を活用する環境整備 生徒：1・2年生は生徒1人1台端末（BYOD）によりiPadを所有しており、3年生は必要に応じてsurfaceを貸与した。県が整備したGoogle、Microsoftのアカウントの他、1・2年生はロイロノートのライセンスを購入し、授業や課外活動等幅広く活用している。 教室：AppleTVを2年生HR教室に導入し、特別教室でも使えるよう購入を進めた。 教師：教師には年度初めにiPadやsurfaceの貸与を行った。必要な教科はデジタル教材を導入しており、生徒用のライセンスの購入やアプリの一斉配信を行った。 ○ICT機器の活用の推進と技術的な支援：各部署で活用できる幅を広げるよう工夫していただいた。本校は端末の利用について特に制限は設けず自由に生徒に活用させており、生徒たちが行事の運営などで自主的に応用する姿も見られる。	
		生徒の学習活動を家庭・地域へ情報発信	39	実践目標	日常授業や特色ある学校行事の主たるものをWebなどで広報する。	3.1
				（成果）	卒業生・中学生・保護者等への広報には，今年度も本校Webサイトが管理職・総務・進路・総理等，多くの部署で活用された。本校Webの発信回数は複数記事の同時発信も1日に1回と数えて，計80回（2023年1月から12月途中まで順に7回，8回，7回，6回，4回，10回，10回，6回，7回，7回，5回，3回）であった（2022年は114回，2021年は138回，2020年は144回，2019年は100回）。昨年より30回以上減少した大きな理由は，SSH通信の掲載停止による。数年前の増加はコロナ禍が大きな要因であった。情報発信に関する具体的な不満や改善要求は生じていない。また本校が作成・運用を継続している「SSH成果の普及サイト」や本校生への「連絡掲示板」も継続して活用された。（SSH事業関連の分析はSSH報告書に掲載する）。	
	特別支援教育	特別な配慮を必要とする生徒への支援	40	実践目標	生徒の実態把握や具体的な対応策の検討により、教職員の実践力を高め、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮ある支援を行う。	3.1
				（成果）	委員会を隔週で開催し、定期考査の別室受験を中心に、ニーズに合った対応ができた	

領域	評価の観点	評価項目	番号	実践目標 と 成果		評価
教科領域	教科	国語	41	実践目標	論理的な文章の読解を通じて、思考力・判断力を養う。また文学的な文章の鑑賞を通して豊かな心を育てる。	3.3
				(成果)	教科における学習活動全般を通じて、論理的な文章や文学的な文章を読解するために必要な国語力を養成した。また、言語活動を授業に取り入れ、思考力や判断力を一層高めることができた。	
			42	実践目標	古文・漢文読解の基本となる知識の定着を図りつつ、さまざまな作品にふれることを通して、古典への関心を育てる。	3.4
				(成果)	古典作品を読解するために必要な基本的な知識の定着に努め、多くの古文・漢文の作品を読む学習活動を通じて、古典に親しみ、古典からさまざまなことを学ぶ姿勢を身につけることができた。	
		地理歴史・公民	43	実践目標	現代をよりよく生きるために、政治・経済の仕組みや、現代世界の理解を深める。学習を通じて、基本的な知識を身につけ、物事を見つめる力を育てる。	3.6
				(成果)	講義形式の授業を中心に演習を加えながら、基本知識を習得した。ICT機器を活用することで、幅広い情報に触れられ理解を深めることができた。	
			44	実践目標	日本の歴史、世界の歴史を学び、現代社会における国際問題を考える基本知識を習得する。	3.6
				(成果)	講義形式の授業を中心に演習を加えながら、基本知識を習得した。ICT機器を活用し、地図や資料など必要な情報を提供して、わかりやすい授業を実施し、理解を深めることができた。	
			45	実践目標	日本の社会・風土の理解を深めるため、各国の自然環境・社会環境を学び、基本知識を習得する。	3.6
				(成果)	講義形式の授業を中心に演習を加えながら、基本知識を習得した。ICT機器を活用し、地図や資料など必要な情報を提供して、わかりやすい授業を実施し、理解を深めることができた。	
		数学	46	実践目標	数学的な考え方を身につけさせ、生徒が主体的・能動的に学習する態度を育てる。	3.4
				(成果)	生徒が興味をもつような補助教材を用意したり，グループワークを取り入れ，生徒が主体的に学び考え，能動的に発表・意見交換ができる授業を展開した。	
			47	実践目標	生徒の進路・能力・適性に応じた授業・補習・課外活動を実施する。	3.5
				(成果)	3年では，すべてのクラスについて一部の授業で能力別・進路別のクラス分けを行った。1，2年でも生徒の学力にあわせた授業・補習・補充を行った。	
			48	実践目標	生徒の興味・関心・意欲を抱けるような教材・教具を工夫し活用する。	3.3
				(成果)	PCやiPadを用いて，図形や関数を，能動的に表現することで，興味関心を抱けるようにし，理解を深めることが出来た。	
		理科	49	実践目標	プリント教材、資料集を活用した授業実践と授業内容の工夫を行い、基礎学力および応用力の向上を図る。	3.6
				(成果)	授業に積極的に参加し、グループワークなどでも活発に意見を交わした。基礎知識を定着に加え、発展問題に対しても意欲的に取り組んだ。	
			50	実践目標	実験・観察のレポートを書かせ、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の向上を図る。	3.3
				(成果)	実験では反転学習も取り入れ、生徒たちはしっかりと予習した上で実験にのぞみ、より理解が深まった。またレポートも研究活動につながる視点で書かせるよう心がけた。	
			51	実践目標	工夫された教具、ICT教材等を活用し、科学・技術に対する幅広い興味・関心を持たせる。	3.3
				(成果)	タブレット端末を活用した反転学習や、授業の中で動画やアプリを用いた教材、クリッカーなどを効果的に取り入れ、生徒の興味関心を高めることができた。	
		保健体育	52	実践目標	スポーツテスト等を実施し、生徒が自己の体力の現状を知ることにより、3年間を通じて体力の向上を図る。	3.2
				(成果)	日々の授業で毎回1200m～1500m走を実施している。個人でタイム記録させ、自らのタイムの変化を認識させることで、新たな目標の設定とメンタル面の強化にも繋がってる。体づくり運動の一環として、リーダーが中心となり、全員で声を出して元気よく筋力トレーニングに取り組むことができた。	
			53	実践目標	選択種目を通じて生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。	3.2
				(成果)	生徒が自ら得意種目を選択できる、種目選択制授業の中で、男女がお互いにアドバイスしたりチームメイトとして協力したりして、仲間を気遣いながら運動を楽しむことができている。	
		芸術	54	実践目標	生涯にわたって広い視野で芸術との関わりを大切にしようとする心情を育てるとともに、実技・実習等で幅広く主体的に取り組む姿勢を育てる。	3.5
				(成果)	心に響く教材を精選し、充実した内容で実践できるように努めた。どの教材にも興味関心を示す生徒が多く、積極的に実技や実習に取り組み、活発な活動ができていた。	
		外国語(英語)	55	実践目標	教科指導を通して、国際感覚を持った人材育成に努める。	3.1
				(成果)	国内外の諸問題に関わる新鮮な教材に触れ視野を広げた。英語を読む、聞くなどのインプット活動だけでなく、学んだ内容を記述したり、発表したりするなど、多様な方法でアウトプット活動を経験させた。異なる考え方や文化的背景を持った人々との議論を通して、国際人としての行動力や寛容さを身につけた。	
			56	実践目標	生徒のニーズに配慮した授業や個別指導を通して、学力の向上と定着を図る。	3.2
				(成果)	各考査結果や、課題提出状況、日常の授業中の様子などに気を配り、授業や課題の内容、実施方法などの改善を行った。ていねいな添削やこまめな声掛けを通して、学習への意欲が高まるようにした。	
			57	実践目標	外国人外国語指導助手や視聴覚教材を有効に活用し、4技能5領域(読む、書く、聞く、発表する、やりとりする)の養成に努める。	3.6
				(成果)	ALTについてはTeam・Teaching授業を中心に、プレゼンテーション、スピーチコンテストやディベート大会などの指導においても積極的な活用を行った。ICT機器を日常的に使用して動画や音声教材などを提供するだけでなく、自身の英語を発信させたりもした。	
		家庭	58	実践目標	社会の一員として、より良い人生を築くために必要な基礎的・基本的知識・技術を習得し、「生きる」力を身につける。持続可能な社会を形成し、消費者の立場として地域社会に貢献する力を養う。また、新しい生活様式に対応するために、生活の工夫ができる力を養う。	3.8
				(成果)	学習活動全般を通じて、SDGSや持続可能な消費生活の実現に関連付けた内容を取り上げ、考察ができるように学習活動を進めた。主体的な消費者として適正な選択と判断する力を養い、その力が社会全体の消費行動に繋がることに気付いた。	
			59	実践目標	実験や実習などを通して実践力を育み、ものごとを構成する力や、論理的・科学的な思考を育成する。また、グループワークなどで自分の考えを表現できるようにする。	3.8
				(成果)	今年度から、感染症予防対策として減らしていたグループで学ぶ機会を増やした。班員で協議し、実践して振り返りをする中で、論理的、科学的な視点で考える力を養うことができた。	
			60	実践目標	外部講師の専門的な講義を活用し、将来の生活設計を考える力を養う。また、日本の食文化を実習の中で体得し、伝統文化を育む。	3.8
				(成果)	衣生活、金融教育、食生活分野で外部講師とのTT授業を例年より多く取り入れた。専門的な講義や実技から学習の意欲や食文化への関心がより高まり、知識の習得に繋がった。金融教育では、人生100年時代のライフプランニングの大切さを実感することができた。	
		情報	61	実践目標	情報を科学的に理解させつつ情報及び情報技術の活用能力を高めるとともに、情報社会に参画する態度を学ばせる。	3.2
				(成果)	SSH事業の方針に含まれる「SSH事業の成果の普及」に沿って「問題解決」や「探究活動への接続」を重視しつつ，共通テスト対策も重視して授業を展開した。過年度から「夏休みに生徒がネット上の問題を起こしたり巻き込まれる事例が発生しにくい」という成果が得られている「情報社会に参画する態度」関連は1学期に指導し，問題発生を軽減したはずである。「科学的な理解」をねらいとする論理演算・回路・デジタル表現・ネットワークの理論等は2学期に開始し，「問題解決や探究活動」を踏まえた理論・統計的手法は3学期に教科書を超えた内容を指導するので，3学期には効果が生じると考えられる。 共通テストで情報が出題されることになり，昨年から内容が大幅に増加して授業時間は不足しているが，情報を礎にした知識・技能・思考判断・データ分析等を，PC活用実習も含めて指導中である(全て12月時点の状況)。	
		総合的な探究の時間(神高探究)の展開と活用	62	実践目標	自らの興味・関心に応じてテーマを設定、探究活動を行うことで探究の方法、考え方、知識等を身につけさせる。また、グループ活動を通して協働性を養い、発表会などを通して外部へ発信するプレゼンテーション能力を育成する。	3.3
				(成果)	1学年に神高探究Ⅰとして，プロジェクト探究Ⅰとして探究の基礎を学習した。また、プレ課題研究とその発表会も実施した。これは2学年での神高探究Ⅱにつながる学習となり，神高探究の実践目標の基礎ができた。2学年では神高探Ⅱとして，本格的な探究活動を行い，8クラス72テーマとなった。中間発表や最終発表会および代表の外部の発表会を通じて8つの力の目標の育成となり，研究能力はもちろんのこと、協働性やプレゼンテーション能力の修得になった。	